

皆さんは、HPV ワクチン副反応を知っているだろうか。私の姉は、十七歳の高校生である。しかし、三年生になって学校に行けたのはたった二回だ。姉は、今の高校が大好きだ。しかし、現在それが思うようにできない状態である。それは、姉が HPV ワクチンの副反応を患っているからである。

HPV ワクチンとは、子宮頸がんを予防するワクチンである。小学六年生から高校一年生の女子を中心に、今まで三百万人が接種した。しかし、接種後色々な症状が出た人が大勢いた。多様で重い症状が一人の体に押し寄せ苦しめる。姉の症状は、頭痛・胸痛などの体中の痛み、手足の痺れや震え、光過敏、耳鳴り、蕁麻疹、疲労感、吐き気、生理異常、睡眠障害、頻脈、呼吸困難、幻覚、幻聴、歩行困難、うつ状態、対人過敏、自傷行為、パニック、記憶喪失などである。そして、この病気の怖いところは進行性であるという事だ。人それぞれ進行の速さは異なり、治療法も見つかっていない。姉は、発病から HPV ワクチンの副反応と分かるまで約四年かかった。姉は、小学校六年生でワクチンを三回接種した。そして、その二年後の中学二年生から体調が悪化。学校にも行けなくなってしまった。姉は、自律神経失調症として治療を続けてきた。私は HPV ワクチンの副反応と分かるまで、「姉は仮病だ。」「こんな姉がいる事が恥ずかしい。」と思っていた。高校一年から、家族で東京に引越し、姉も心機一転「これで治る。」と本人も家族も思った。しかし、体調は悪くなる一方で登校困難になってしまい、高校二年生になると、様々な症状が次々現れた。一番衝撃的だったのは、記憶喪失である。友達と電話中、突然中学三年生からそれまでの記憶がなくなってしまったのだ。数日で大方の記憶はもとに戻ったが、私にとっても恐ろしい経験だった。こんなことがあっても私の家族は、自律神経失調症と思い、いずれ治ると信じていた。誰よりも姉自身が前向きだった。高校二年生の秋、母が HPV ワクチン副反応のニュースを見て、姉の症状に似ている事に気づいた。今年二月、姉は HPV ワクチン副反応という診断を受けた。その時は「やっと見つかった。」という喜びと同時に、姉を信じてあげなかった事に「申し訳なかった」と思った。高校三年生の今は昼夜が逆転し、日中は眠ったままで、薬を飲んでも症状を和らげる効果のみで進行は止まらない。姉は、こんな状況で学校へ行けないため、私が学校の楽しい事などを話すといつも羨ましそうな顔をする。私は、その顔が正直辛い。「姉はこんなに苦しんでいるのに、私だけ楽しんでいいのか。」そう思ってしまった。しかし、姉は「私の分まで学校を楽しんで。」と言ってくれた。私はそれまでの悩みが消え「姉の分まで学校を楽しもう。」と思った。

現在 HPV ワクチン副反応は、医者の間でも対立があり病気として扱われない中途半端な状態にある。この病気と言うだけで、とても否定的な目で見られることもある。そのため相談できる医者も少ない。私たち家族は、次にどのような症状が姉を襲い、これからどうなっていくのかという恐怖に怯えている。しかし姉は体調の良い時は病気を忘れ笑顔で過ごしている。その時の姉の笑顔が私たちの希望である。現在 HPV ワクチン副反応の患者が国と製薬企業を相手に、集団訴訟している。私は、この訴訟をきっかけに、国と製薬企業に謝罪してもらい、賠償金を払って欲しいと思う。でも私は、まず早く治療法を見つけて欲しい。そして姉の人生を返して欲しい。現在この症状は全然世間に知れ渡っていない。そのため、今も原因が分からず苦しんでいる人が沢山いるはずだと思う。日本中の人がこの病気を知り、関心を持って欲しい。そして、私はこれからも姉を支えていきたい。

姉は、症状に苦しみ、それ以上に周りの人に理解されず苦しんできた。私も、理解せず非難の目で見えた一人だ。私は、このように理解されず苦しんでいる人は沢山いると思う。そのような人を非難の目で見るとは、ではなく、しっかりその人のありのままを理解し、認める。そして、その人のペースに合わせ支えてあげる事が大切だと考える。